KOBELCO 神戸製鋼グループ | 神鋼造機株式会社

米谷社長の「経営戦略インタビュー」が掲載されました。

2016年7月28日 日刊工業新聞掲載

岐阜の成長企業トップインタビュー

神鋼造機 米谷剛人社長に聞く

神鋼造機
米谷剛人社長

神鋼造機は各種試験機と動力伝達装置、発電装置の製造を手がける。これら装置のアフターサービスを事業の４本目の柱に据え、収益の多様化を図る。移動電源車のパイオニアとして50年以上の実績がある同社。近年はインフラ関連企業だけでなく、自治体や工場でも移動電源車の採用が増えており、2016年３月期の販売台数は52台と過去最高を更新した。今期スタートした中期経営計画では21年３月期に16年３月期比25%増の売上高120億円を目指す。米谷剛人社長に戦略などを聞いた。

（岐阜支局長・伊藤吉登）

アフターサービスや受託試験にも注力

―受注環境について

お聞かせください。

「移動電源車が注目されるが、試験機なども好調だ。４事業が各20億円規模に育った。アフターサービスは安定した売上高を確保でき、利益寄与度も大きい。昨年、納入製品の管理システムを導入した。部品の受注履歴や補修状況などを一元管理でき、当社側から部品交換サイクルを見据えた提案ができるようになった。一方で為替動向は気がかり。ユーロ安を受け、欧州試験機メーカーが国内市場に販売攻勢をかけてくる可能性もある。原価低減と製品の高付加価値化を進める」

―11年の東日本大震災を機に移動電源車が広く認知されました。

「自然災害やBCP対応で、従来の電力会社や通信会社のほか、自治体や自動車部品工場などの一般企業でも採用ニーズが高まった。高電圧仕様だけでなく低電圧、低容量仕様を投入し、ラインアップを増やした。また、悪路走行ができるクローラー式やヘリコプターによる空輸型などの特殊車両も開発し、用途拡大を図っている。４月に発生した熊本地震では全国の電力会社から約170台の移動電源車が熊本地区に集結した。当社も社員を派遣して九州電力と連携し、電力復旧の支援活動を行った」

―試験機事業の売上高の８割を自動車用トランスミッション関連試験機が占めます。

「当社の同試験機での国内シェアは６割。トランスミッションは動力伝達装置として燃費に深く関わるため、業界で開発競争が激化しており、試験機の需要が高い。５月に受託試験事業も始めた。専用スペースを設け、排気量4000ccクラスまでのトランスミッションの品質や耐久性試験ができる装置などを配置した。関連部品の歯車やクラッチ、潤滑油の試験まで網羅する。開発速度があがる点を訴求する。将来の試験機購入が見込める中小サプライヤー開拓にもつなげる」

―神戸製鋼所グループのネットワークを活用し、ベトナムで移動電源車の販売を目指されています。

「11年にホーチミン市に駐在員事務所を設け、市場調査を行ってきた。インフラ開発が進む現地では工事に伴う停電が多い。移動電源車の活用で停電が防げるため、需要が期待できる。７月に現地大手のハノイ電力向けにデモ車両の１号機を納入した。モニター試用してもらい、利点を訴求する。デモ車両は今後の現地販売を見据え、当社グループ企業との連携により、資材は全て現地調達し、組み立ても現地で行った。カンボジアやミャンマーなどもインフラ開発が進んでおり、市場として有望視している」